MPC-WEBORCAWU

取扱説明書

株式会社アイ・オー・データ機器

20251003

内容

1 はじめに 2
1-1 初期設定ユーザ情報 2
2 WebORCA セットアップ補足情報 3
2-1 WebORCA オンプレ版(WSL2)のセットアップ補足情報 3
2-1-1 参照手順書と実施済項目 3
2-2 WebORCA クラウド版のクライアントセットアップ補足情報 8
2-3 ハイブリット WebORCA のセットアップ補足情報 8
3 本製品の各部名称 10
4 本製品のログオン方法 11
4-1 日時・時刻設定を確認する 12
4-2 IP アドレスを確認・設定する 13
4-3 コンピューター名/ドメイン名の設定を確認する 14
4-4 Windows Update を実行する 15
4-5 SSD の状態を確認する 16
5 困ったときには 17
5-1 ユーザ orca のパスワードを変更したい 17
5-2 Ubuntu ユーザーパスワード変更の手順 17
6 システムリカバリーする 18
6-1 リカバリーUSB メモリーを作る 19
6-2 リカバリーの準備をする 23
6-3 システムをリカバリーする 23
6-3-1 出荷時状態に戻す 23
7 お問い合わせについて 25
7-1 専用端末の注意事項 25
7-2 製品のお問い合わせについて 25
7-3 ハードウェアに関するお問い合わせ先（メールのみ） 26
7-4 故障時のご連絡先 27

1 はじめに

本製品は、Windows10 IoT Enterprise LTSC 2021、および、WSL2 環境に「Ubuntu Pro for Devices」のライセンスを付与した「Ubuntu 22.04 LTS」（以下 WSL2 ubuntu 環境）がプリインストールされています。
また、WebORCA オンプレ版と、Hybrid WebORCA を利用するための必要なソフトウェアがプリインストールされており、選択して利用することができます。

各ソフトのインストールバージョンは以下の通りとなっています。
導入時に、アップデートを行い、ご利用ください。

(リカバリメディア作成時点での最新:2024/09)

Windows10 Iot Enterprise 2021	21H2(19044.4894)
Google Chrome	128.0.6613.139
WSL2	2.3.24
Ubuntu 22.04 LTS	22.04.05 LTS
WebORCA	Middle Ware 20240911-1 Compiler 20240910-1 Application 20240904-1

以下ソフトに関しましては、ORCA PROJECT「日医標準レセプトソフト」サイトをご確認いただき、
新バージョンがリリースされている場合には、手順に従い、アップデートしてください。

ORCAMO クラウド拡張バージョン	1.0.7
Hybrid WebORCA	1.03(2024.6.26)
Podman	5.1.2

また、2024 年 6 月現在の ORCA 管理機構様提供のセットアップ手順 URL 等を、C:¥I-ODATA フォルダ(デスクトップにショートカット)に格納してありますので、ご利用ください。

1 - 1 初期設定ユーザ情報

初期設定として、ユーザを作成済みです。初回ログイン時には、以下ユーザにてログインしてください。

（注意）セキュリティのため、初期設定パスワードは、セットアップ後、必ず変更してください

→ユーザ orca のパスワードを変更したい
→Ubuntu ユーザーパスワード変更の手順

Windows 初期設定ユーザについて

ユーザ「orca」にて、Ubuntu-WebORCA オンプレ版をセットアップしている為、
他ユーザではサービス起動できません。

ユーザ：orca　　パスワード：iodata

WSL Ubuntu(WebORCA オンプレ版用)初期設定ユーザについて

ユーザ：oruser　　パスワード：iodata

2　WebORCA セットアップ補足情報

WebORCA オンプレ版とハイブリッドサービス WebORCA オンプレ版は、**いずれか一つのご利用**とし、以下の手順にて、セットアップしてください。

【WSL2 ubuntu 環境 WebORCA オンプレ版】

2 - 1 WebORCA オンプレ版のセットアップ補足情報

【ハイブリッドサービス WebORCA】

2 - 2 WebORCA クラウド版のクライアントセットアップ補足情報

2 - 3 ハイブリット ORCA のセットアップ補足情報

2 - 1 WebORCA オンプレ版(WSL2)のセットアップ補足情報

※ハイブリットサービス HybridWebORCA のローカル応急措置環境を使用する場合は、本項目の設定は行わないでください。

本製品で WebORCA オンプレ版を利用するには、以下の内容を確認し、追加設定が必要な内容を実施してください。

（制限事項）WSL2 上の Ubuntu22.04 LTS に対し、Ubuntu-Desktop をインストールし、リモートデスクトップ接続で GUI 操作を可能としてありますが、一部アプリケーションでエラーとなることがあります。代替対応として、ターミナル上でコマンドにて対応をお願いします。

2 - 1 - 1 参照手順書と実施済項目

日医標準レセプトソフト Ubuntu 22.04 LTS(Jammy Jellyfish)のインストールドキュメント(HTML 版)

https://www.orca.med.or.jp/receipt/download/jammy/jammy_install_52.html

設定実施済項目

参照手順書の以下の項目は設定実施済となっています。

項目「日医標準レセプトソフトのインストール」は手順通りにインストール

項目「クライアント環境の構築」

1. Google Chrome のインストール
2. 拡張 OS ネイティブモジュールのインストール

項目「印刷の設定」

項目「Maxjobs の設定」

項目「IPV6 の無効化」

追加設定が必要な項目

Chrome を起動し、デフォルトのブラウザに設定する

クラウド版または、オンプレ版いずれかの利用するサーバに応じて、設定する

項目「クライアント環境の構築」

3. Chrome 拡張機能のインストール

4. GoogleChrome の追加設定　以降

必要に応じて設定する項目

項目「印刷の設定」

2-1-2 Ubuntu-WebORCA(WSL2)の起動

[スタートメニュー]から[WSL]を起動する

または、コマンドプロンプトにて以下のコマンドを実行

「wsl -d Ubuntu-WebORCA」

2-1-3 WebORCA オンプレ版 ormaster パスワードの設定

wsl-Ubuntu プロンプト上で、以下、コマンドを実施し、パスワードを設定する

sudo -u orca /opt/jma/weborca/app/bin/passwd_store.sh

(参考：I-O DATA¥wsl-WebORCA オンプレ版¥Readme･追加セットアップ参考情報.txt)

2-1-4 その他

サーバ版印刷設定など Wsl-Ubuntu サーバの設定を変更するには

リモートデスクトップ接続にて、「localhost:3390」にアクセスする

Xsrv のユーザは、ユーザ名=root でログインする

※初回実行前に、root のパスワード設定を行う必要がある。

Ubuntu ターミナルにて、以下コマンドで設定する。

```
sudo -i
passwd
```

Ubuntu の自動更新を停止するには

「/etc/apt/apt.conf.d/20auto-upgrades」ファイルの修正を行う。

項目の値を、”0”にする。

```
APT::Periodic::Update-Package-Lists "0";
APT::Periodic::Download-Upgradeable-Packages "0";
APT::Periodic::AutocleanInterval "0";
APT::Periodic::Unattended-Upgrade "0";
```

同一ネットワーク上の別 PC ブラウザから WSL の WebORCA にアクセスするには

ポート=8000 に対するポートフォワーディング設定、ファイアウォールの例外ルールを作成することで、ホスト IP アドレスでアクセス可能となります。

以下サンプルスクリプトを、運用・環境に合わせ、修正・動作確認を行ってご利用ください。

(「C:¥I-O DATA¥wsl-WebORCA オンプレ版¥」フォルダにサンプルファイルがあります。)

※データベースの二重化など必要に応じて、対応するポートを追加してください。

(ポート　8000：WebORCA クライアント、5432：PostgreSQL データベース)

```
# 現在のユーザーが管理者権限を持っていない場合に、スクリプトを管理者権限で再実行するための処理です。
if
(!([Security.Principal.WindowsPrincipal][Security.Principal.WindowsIdentity]::GetCurrent()).IsInRole("Administrators"))
{ Start-Process powershell.exe "-File `"$PSCommandPath`"" -Verb RunAs; exit }

# WSL 2 インスタンスの IP アドレスを取得します。
# bash.exe を使って、ip r コマンドを実行し、結果から IP アドレスを抽出します。
# IP アドレスが取得できない場合、スクリプトは終了します。
$ip = bash.exe -c "ip r |tail -n1|cut -d ' ' -f9"
if( ! $ip ){
  echo "The Script Exited, the ip address of WSL 2 cannot be found";
  exit;
}

# 通信を許可するポート番号のリストを指定します。
# このスクリプトでは、5432,8000 のポートを指定しています。
$ports=@(5432,8000);
$ports_a = $ports -join ",";

# 以前に作成されたファイアウォールの例外ルールを削除します。
iex "Remove-NetFireWallRule -DisplayName 'WSL 2 Firewall Unlock' ";

# New-NetFireWallRule コマンドを使用して、指定したポート番号に対するインバウンドおよびアウトバウンドのファイアウォール例外ルールを作成します。
iex "New-NetFireWallRule -DisplayName 'WSL 2 Firewall Unlock' -Direction Outbound -LocalPort $ports_a -Action Allow
-Protocol TCP";
iex "New-NetFireWallRule -DisplayName 'WSL 2 Firewall Unlock' -Direction Inbound -LocalPort $ports_a -Action Allow -
Protocol TCP";

# netsh interface portproxy コマンドを使用して、ポートプロキシの設定を行います。
# 指定したポート番号に対して、IP アドレスを介しての接続を許可します。
for( $i = 0; $i -lt $ports.length; $i++ ){
  $port = $ports[$i];
  iex "netsh interface portproxy add v4tov4 listenport=$port listenaddress=* connectport=$port
connectaddress=$ip";
}

# 作成されたポートプロキシの設定を表示します。
```

```
iex "netsh interface portproxy show v4tov4";
```

※PowerShell 実行エラーとなるようであれば、上記スクリプトを、ファイルに保存し、コマンドプロンプト（管理者モード）にて以下のコマンド実行をお試しください。PowerShell（管理者モード）で実行するコマンドとなります。

例）powershell -ExecutionPolicy RemoteSigned -File "C:¥ wsl-WebORCA¥wsl_portforwarding.ps1"

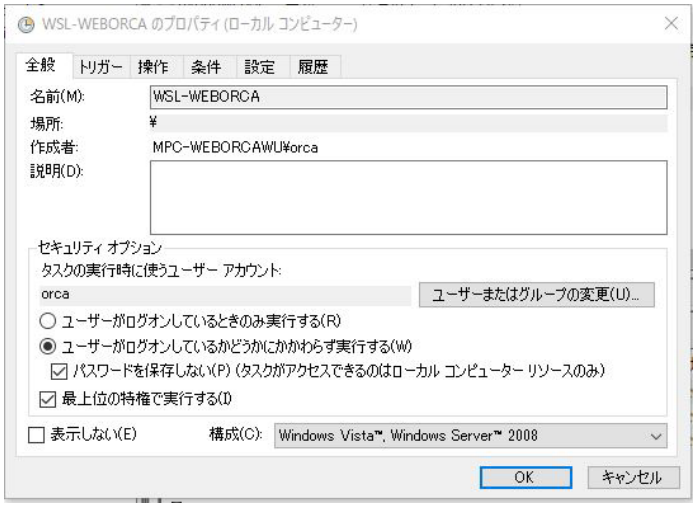
上記設定により、別 PC から、「[ホスト IP アドレス]:8000」で WebORCA にアクセスが可能となります。

PC 起動時に WSL2 を起動する方法

タスクスケジューラにスタートアップ時の実行タスクを登録する。

※Windows に orca ユーザで自動ログインしての起動となります。

Windows シャットダウン時には、事前にタスクを終了、ログオフしてください。

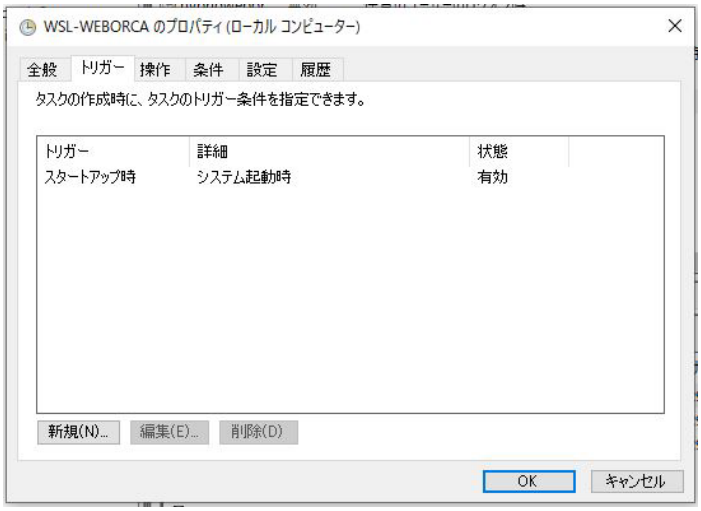


[全般]-[セキュリティオプション]

タスクの実行時に使うユーザーアカウント：orca

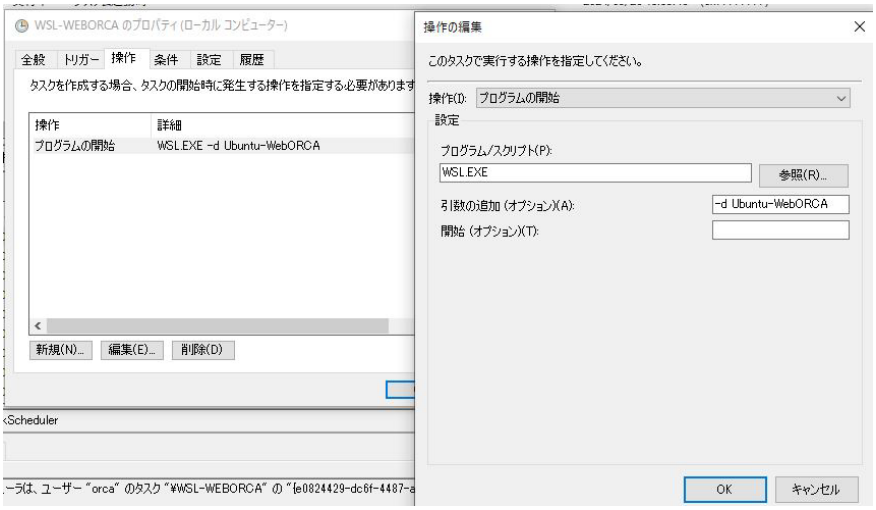
・ユーザがログオンしているかどうかにかかわらず実行する ＝ ON

・パスワードを保存しない ＝ ON



[トリガー]

トリガー：スタートアップ時(システム起動時)



[操作]

操作：プログラムの開始

プログラム/スクリプト：WSL.EXE

引数の追加：

2-2 WebORCA クラウド版のクライアントセットアップ補足情報

※WebORCA オンプレ版を使用する場合は、本項目の設定は不要です。

WebORCA クライアント設定

2-2-1 参照手順書と実施済項目

「WebORCA クラウド構築手順書」

(https://ftp.orca.med.or.jp/pub/data/weborca/weborcacloud-setup-20240626.pdf)

設定実施済項目

「5.7.クライアントの設定」のみを実施対象とする。

他は利用申込、環境移行設定手順や追加アプリ設定手順の為、対象外とする。

項目「5.7.1. Google Chrome のインストール」

項目「5.7.2. 拡張 OS ネイティブモジュールのインストール」

追加設定が必要な項目

Chrome を起動し、デフォルトのブラウザに設定する

以下、クラウド版または、オンプレ版いずれかの利用するサーバに応じて、設定する

・クラウド版

項目「5.7.3. Chrome 拡張機能のインストール」

項目「5.7.4. 証明書のインストール」 以降

2-3 ハイブリット WebORCA のセットアップ補足情報

※WebORCA オンプレ版を使用する場合は、本項目の設定は不要です。

2-3-1 参照手順書と実施済項目

「ハイブリッドサービス WebORCA 導入手順書 第 3 版」

C:¥I･O DATA¥HybridWebORCA¥hybridserviceweborca-introductionmanual-20240626-1.pdf

(https://ftp.orca.med.or.jp/pub/data/hybrid/hybridserviceweborca-introductionmanual-20240626-1.pdf)

設定実施済項目

1～2､6：エンドユーザ毎に対応が必要な為、未実施 、4､5:OS 対象外により未実施

3.インストール(Windows)を実施

タスク「hybridweborca」を無効化

podman-5.1.2-setup.exe

追加設定が必要な項目

タスク「hybridweborca」を有効化し、実行する

「ハイブリッドサービス WebORCA 導入手順書 第 3 版」の 6. 設定の手順を実施する

2-3-2当環境設定について：

Hybridweborca インストール先：c:¥Hybridweborca_win

※「Hybrid WebORCA 各種設定」の以下のパラメータを出荷時に設定する

運用環境接続設定

ホスト　https://weborca.cloud.orcamo.jp/

ハイブリッド設定

使用する応急措置設定　ローカル

クラウド応急措置ホスト　https://hybrid-weborca.cloud.orcamo.jp/

ローカル応急措置設定

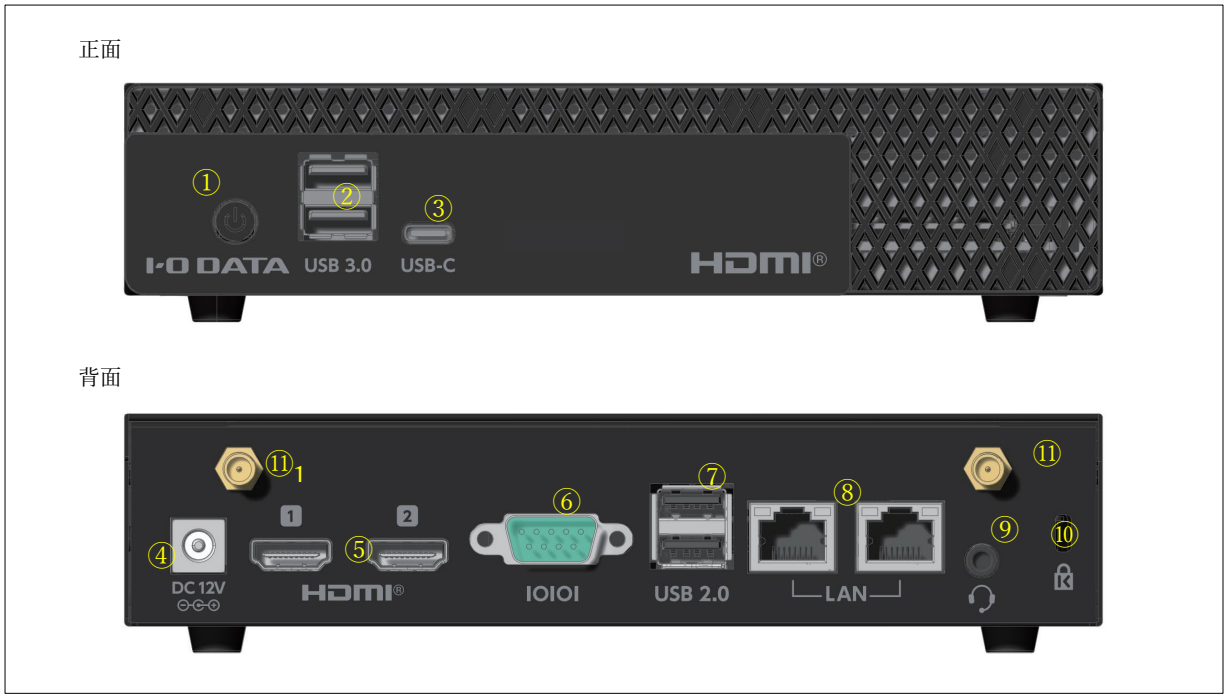
ローカル応急措置ホスト　http://127.0.0.1:8000/

ORCA ユーザ(API)　ormaster

バックアップ

バックアップパス　c:¥hybridweborca_win¥backup(フォルダ作成済み)

3 本製品の各部名称



[正面]

① 電源ボタン（電源ランプあり）

② USB ホストポート

USB 5Gbps（USB 3.2 Gen1）Type A x2

③ USB ホストポート

USB 5Gbps（USB 3.2 Gen1）Type C x1

[背面]

① 電源端子（12V 入力/センタープラス）

② HDMI ポート（Type A） x 2

③ シリアルポート（RS232, Dsub 9 ピン オス）

④ USB ホストポート（USB2) Type A x 2

⑤ 有線 LAN ポート（RJ45/1Gbps） x 2

⑥ 3.5mm フォンジャック（4 極）

⑦ セキュリティスロット（ケンジントン）

⑧ Wi-Fi アンテナコネクタ

ランプ

電源ランプ	種別：LED（電源ボタン中央に搭載） 状態： 青点灯： 電源 ON 点滅： スタンバイ（スリープ） 消灯： シャットダウン
LAN	種別：LED (LAN コネクタ上部両端に搭載) 状態：橙点灯/点滅： 通信時に点滅 緑点灯： リンク時に点灯

ボタン

電源ボタン	種別：プッシュスイッチ 機能： シャットダウン状態　⇒　短押し/長押し　⇒　電源 ON 電源 ON　⇒　長押し　⇒　強制電源 OFF 電源 ON　⇒　短押し　⇒　シャットダウン　※OS の設定による

4 本製品のログオン方法

本製品にディスプレイやキーボード・マウスをつなぎ、直接操作している場合のログオン方法です。

1. 添付の初回設定マニュアルを参照し、本製品にディスプレイとキーボード・マウスをつないだ上で、AC アダプターで電源コンセントとつなぐ
2. 前面の電源ボタンを押す
3. パスワード欄に パスワードを入力する（ユーザ名：orca）

   ［→］をクリックする

   ⇒ 本製品へログオンします。

※出荷時パスワードは、「iodata」です。

直接操作による本製品へのログオンは完了です。

5 本製品の設定

5-1 日時・時刻設定を確認する

1. ① タスクトレイの時刻をクリックする

   ②［日付と時刻の設定］をクリックする



2. ［時刻を自動的に設定する］を［オン］にする



本製品がインターネットに接続していない場合

［日付と時刻を変更する］の［変更］から正確な時刻を設定してください。

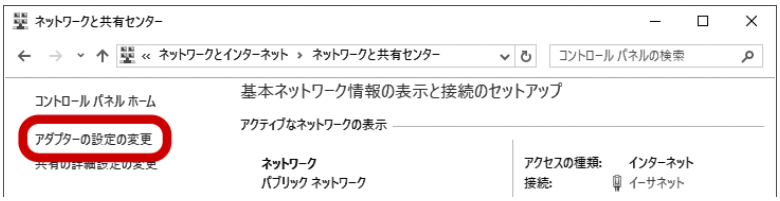
以上で、日時・時刻設定の確認は完了です。

5-2 IP アドレスを確認・設定する

1.画面の左下にマウスポインターを移動し、右クリックして表示されたメニューの［コントロールパネル］をクリックする

2.［ネットワークとインターネット］→［ネットワークと共有センター］をクリックする

3.［アダプターの設定の変更］をクリックする



4.

① 設定する LAN アダプターを右クリックする

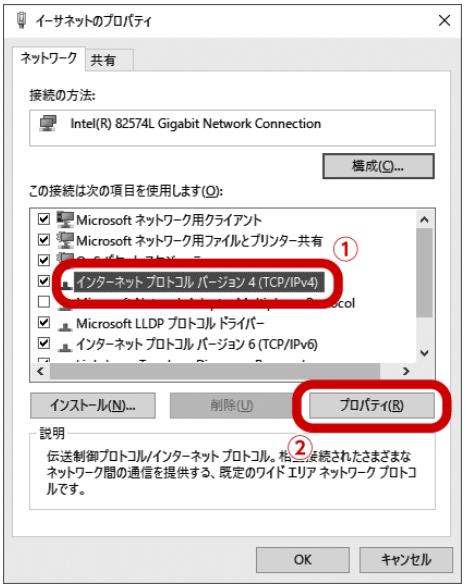
② ［プロパティ］をクリックする



5.

① ［インターネットプロトコルバージョン 4(TCP/IPv4)］を選ぶ

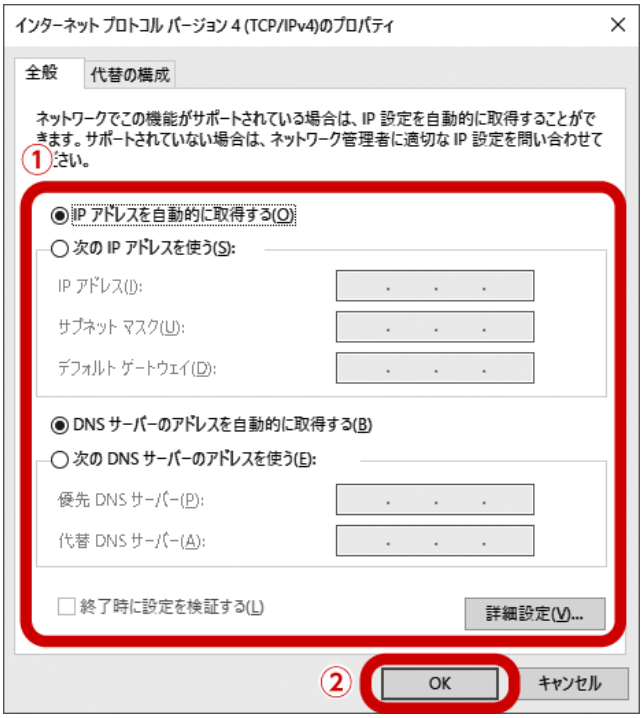
② ［プロパティ］をクリックする



6.

① IP アドレスを確認・設定する

②［OK］をクリックする



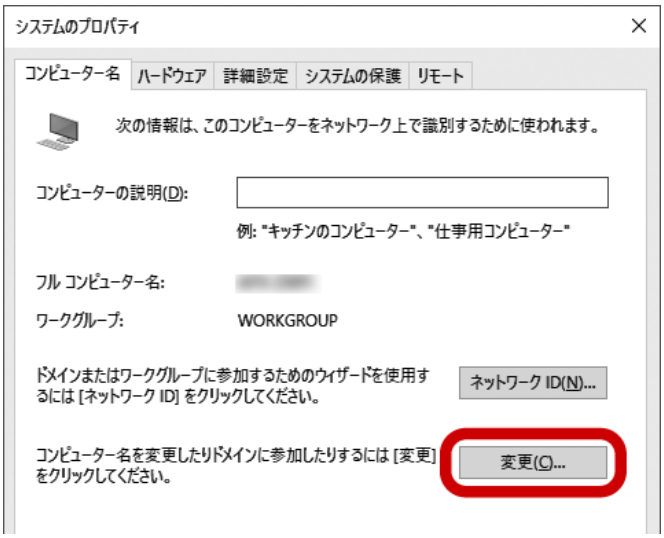
以上で、IP アドレスの確認・設定は完了です。

5-3 コンピューター名/ドメイン名の設定を確認する

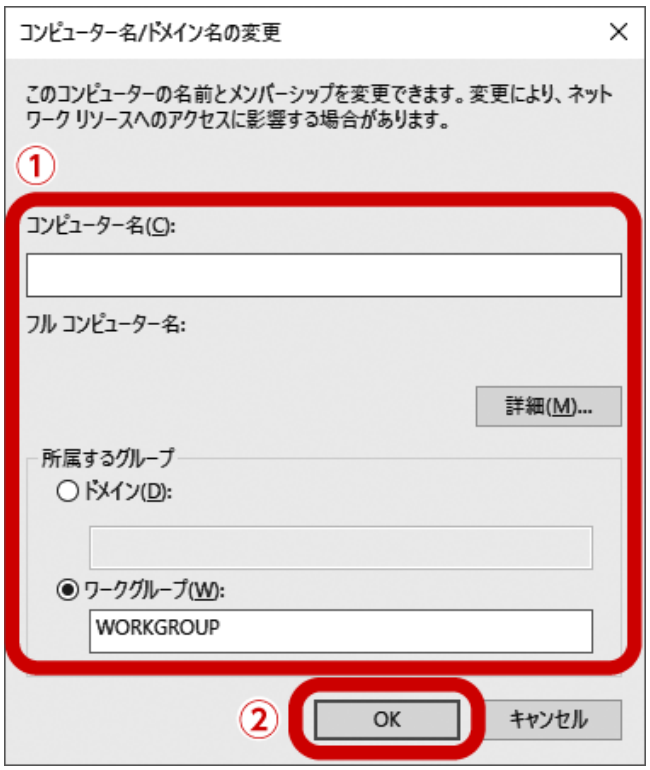
1. 画面の左下にマウスポインターを移動し、右クリックして表示されたメニューの［システム］をクリックする

2. ［コンピューター名］横の［設定の変更］をクリックする

3. ［変更］をクリックする



4. ① 必要に応じて設定を変更する
   ②［OK］をクリックする

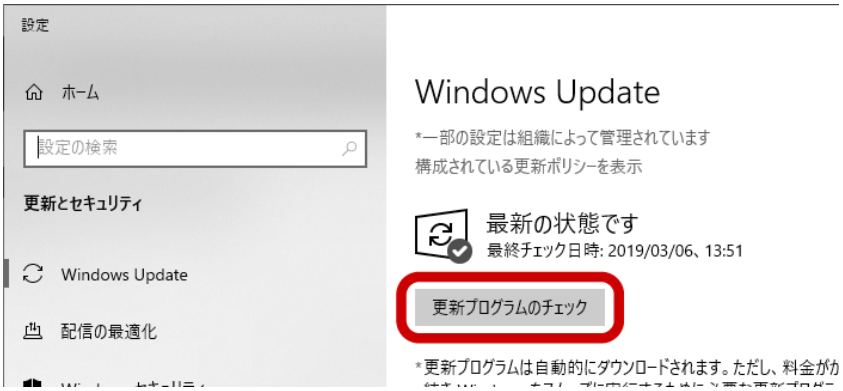


このあと、画面の指示にしたがって本製品を再起動します。

以上で、コンピューター名/ドメイン名の設定確認は完了です。

5-4 Windows Update を実行する

1. 画面の左下にマウスポインターを移動し、右クリックして表示されたメニューの［設定］をクリックする
2. ［更新とセキュリティ］→［Windows Update］をクリックする
3. 更新がある場合は、［更新プログラムのチェック］をクリックする



更新プログラムのダウンロード、インストールが実行されますのでしばらくお待ちください。

以上で、Windows Update の実行は完了です。

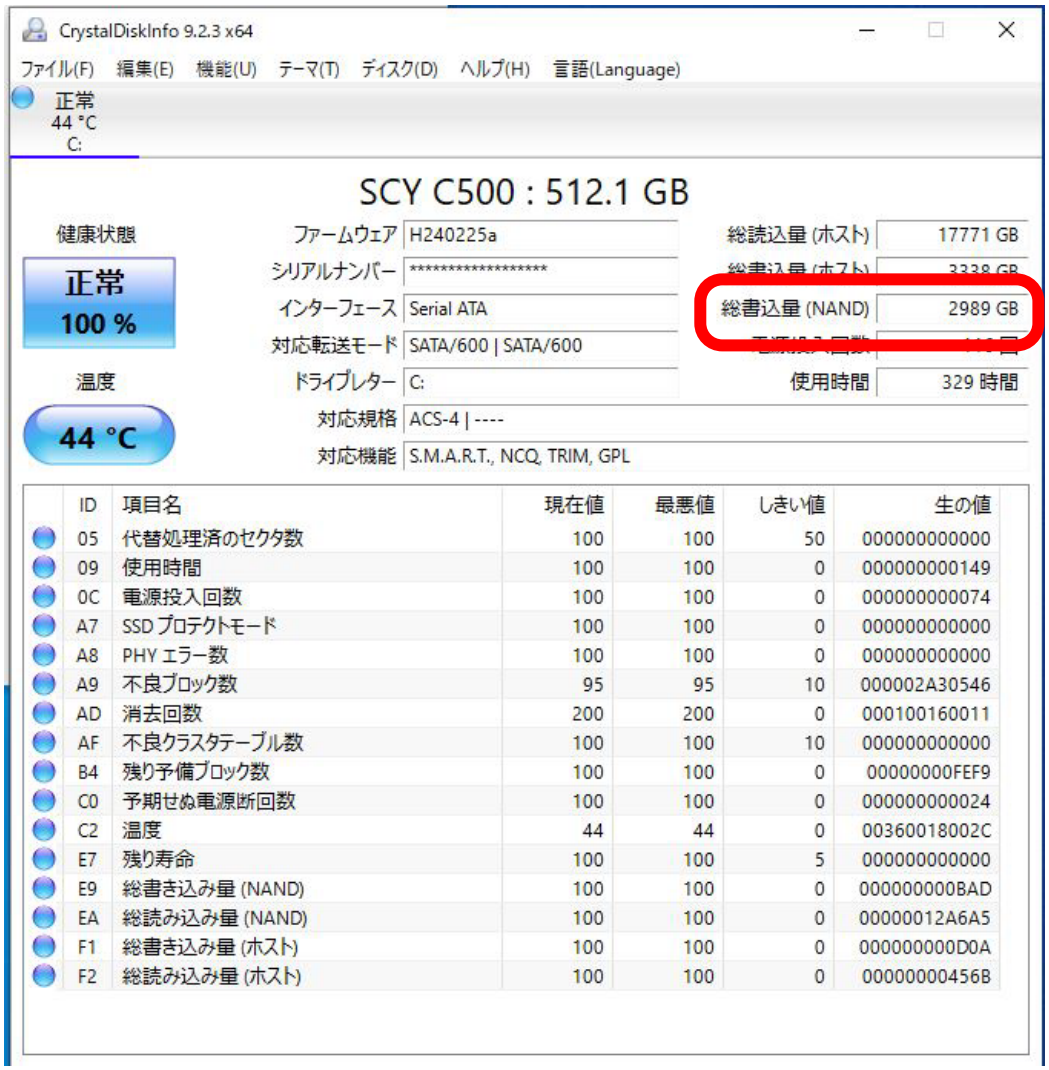
5-5 SSD の状態を確認する

1. CrystalDiskInfo を起動する

   C:¥I-O DATA¥CrystalDiskInfo¥DiskInfo64.exe をダブルクリックにて起動する

2. 右上にある総書込量（NAND）の値を確認する

   ※総書込量（NAND）の値が、「200TB」または、「200000GB」を超えている場合は、SSD の寿命となる為、本体の買い替えをおすすめします。



6　困ったときには

6-1　ユーザ orca のパスワードを変更したい

変更したい場合は以下の手順にしたがってください。

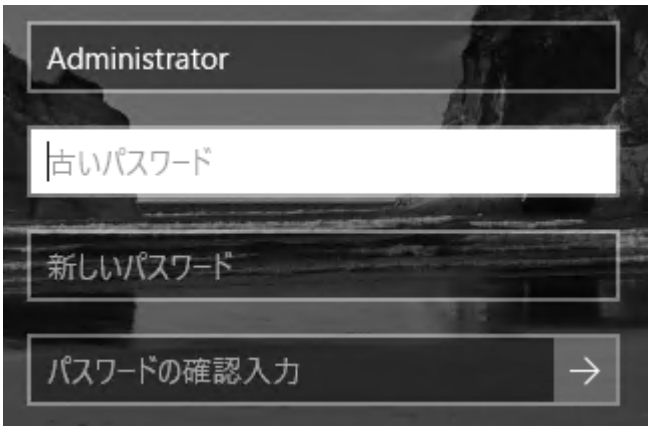
① 本製品へログオンする

② キーボードの [Ctrl]+[Alt]+[End] キーを押す

※ 本製品にキーボード等を接続している場合は、キーボードの[Ctrl]+[Alt]+[Delete] キーを押す

③［パスワードの変更］をクリックする

④ パスワードを設定する



古いパスワード：出荷時のパスワードは「iodata」です。

6-2 Ubuntu ユーザーパスワード変更の手順

変更したいユーザでログインの上、ターミナルコンソールにて下記を入力してください

$ passwd

”Current password”には、現在のパスワードを入力してください

"新しい パスワード:"には、新しいパスワード※を入力してください

ご注意

新しいパスワードは 8 文字以上である必要があります。

7　システムリカバリーする

ご注意

- システムリカバリーをおこなうと、本製品のシステムおよびデータ領域は完全に出荷時の状態に戻ります。
  保存されていたデータや、設定情報はすべて失われますので、必ず事前にバックアップしてください。

【重要】システムリカバリーは、必ず以下の手順にしたがってください

1. リカバリーUSB メモリーを作る
2. リカバリーの準備をする
3. システムをリカバリーする

7-1　リカバリーUSB メモリーを作る

弊社 IO Portal にユーザー登録し、「リカバリーメディア作成ツール」をダウンロードします。

それを使って、リカバリーUSB メモリーを作ります。

【重要】16GB 以上の USB メモリーが必要です。別途準備してください。

1. USB メモリーを 本製品（UbuntuPC ）の USB ポートに差し込む

   → Ubuntu が認識すると、左サイドバーに USB デバイスが表示されます。



2. USB メモリーをフォーマットする

   1. 画面左下のアプリケーションメニュー をクリックし、［ディスク］をクリック。

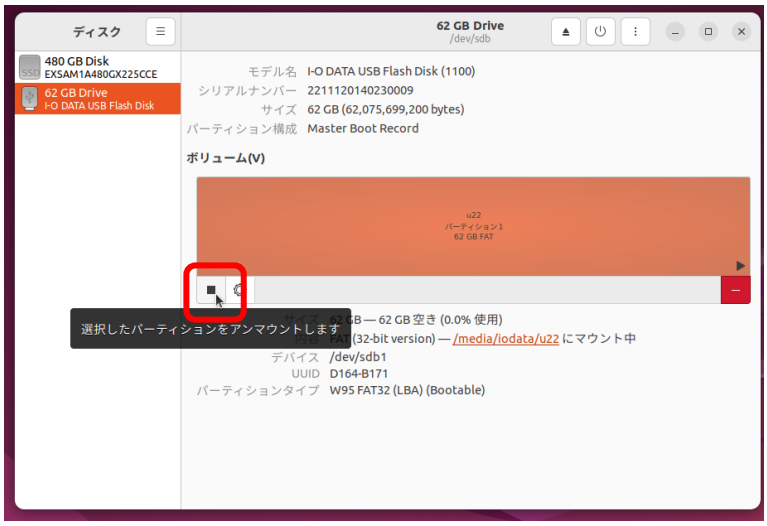


   2. フォーマットする USB メモリーを左側のリストから選ぶ。



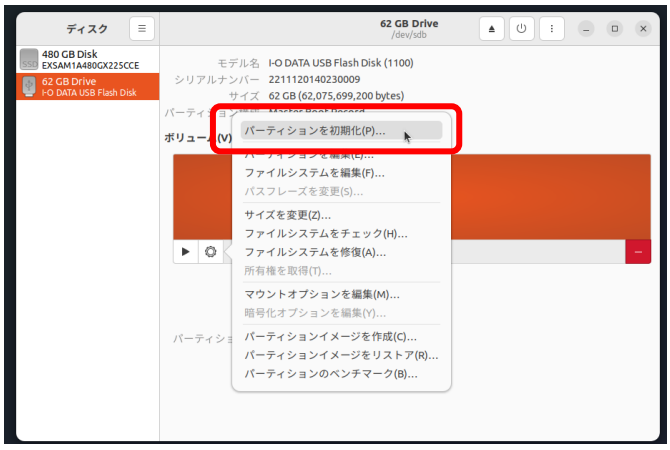
3. デバイスがマウントされていたら■をクリック

→USB メモリーがアンマウントされます。



4. 歯車アイコンをクリックし、[パーティションを初期化]を選ぶ

→[ボリュームを初期化]画面が開きます。



5. 任意の[ボリューム名]を入力し、[タイプ]で[すべてのシステムとデバイスで使用する(FAT)] を選び、[次へ]をクリック。



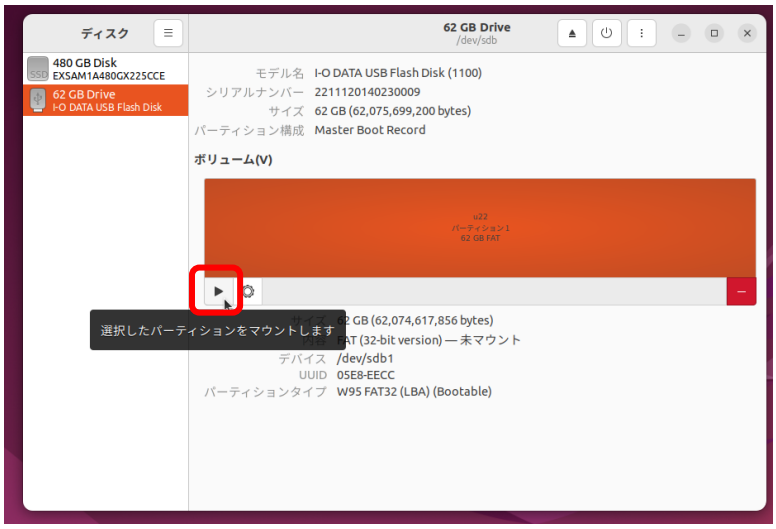
6. ［初期化］をクリック

→ フォーマットを開始します。



7. フォーマット完了後［▶］をクリック

→USB メモリーがマウントされますので、画面を閉じます。



3. ダウンロードしたファイルを展開する

① 左サイドバーの［ファイル］でファイルが保存されているフォルダーを開く



② ファイルを右クリックし［ここで展開］をクリック

→同じフォルダーに展開されます。

4．展開したフォルダーを USB メモリーにコピーする

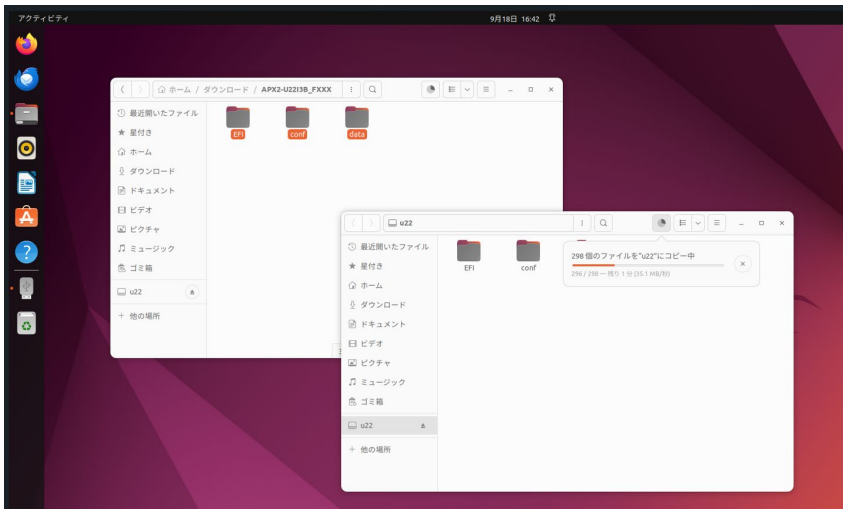
① 左サイドバーの USB デバイスをクリック



② 展開されたフォルダー（例：~/Downloads/APX2-U22I3B_FXXX）から、

下記フォルダーをドラッグ＆ドロップで USB に移動する

「EFI」「conf」「data」



5. 左サイドバーの USB デバイス を右クリック し、[取り出す] をクリックして

USB メモリーを取り外す

【参考】Windows パソコンで作成する場合

1. パソコンを用意し、IO Portal から「リカバリーメディア作成ツール」をダウンロードする
   IOPortal（https://ioportal.iodata.jp/?lsrc=emanu）にアクセスし、ユーザー登録後、本製品のシリアル番号を登録することで、「リカバリーメディア作成ツール」をダウンロードできます。
2. 「リカバリーメディア作成ツール」に内包している手順書を参照して、リカバリーUSB メモリーを作成してください。

7-2　リカバリーの準備をする

リカバリーに必要な機材を本製品へ接続します。

1. 次の機材を用意する
   - HDMI ディスプレイ
   - USB キーボード、USB マウス
   - 作ったリカバリーUSB メモリー
2. 本製品の電源を OFF にしてから、以下の機材を本製品に接続します。

   ※ 以下の機器以外は接続しないでください。
   - HDMI ディスプレイ

     背面の HDMI コネクターに接続する
   - USB キーボード、USB マウス

     背面の USB ポートに接続する
   - リカバリーUSB メモリー

     前面の USB ポートに接続する

準備が終わったら、システムをリカバリーするに進んでください。

7-3　システムをリカバリーする

システムリカバリー（出荷時状態に戻す）をおこなうと、本製品のシステムおよびデータ領域は完全に出荷時の状態に戻ります。保存されていたデータや、設定情報はすべて失われますので、必ず事前にバックアップしてください。

7-3-1　出荷時状態に戻す

1. リカバリーの準備をした上で、本製品の電源を入れる

   ⇒ リカバリープログラムが起動します。

エラーでリカバリーできない場合、リカバリープログラムが起動しない場合

① 本製品の電源投入直後より、［F11］キーを押しつづけて、Boot Manager を起動する

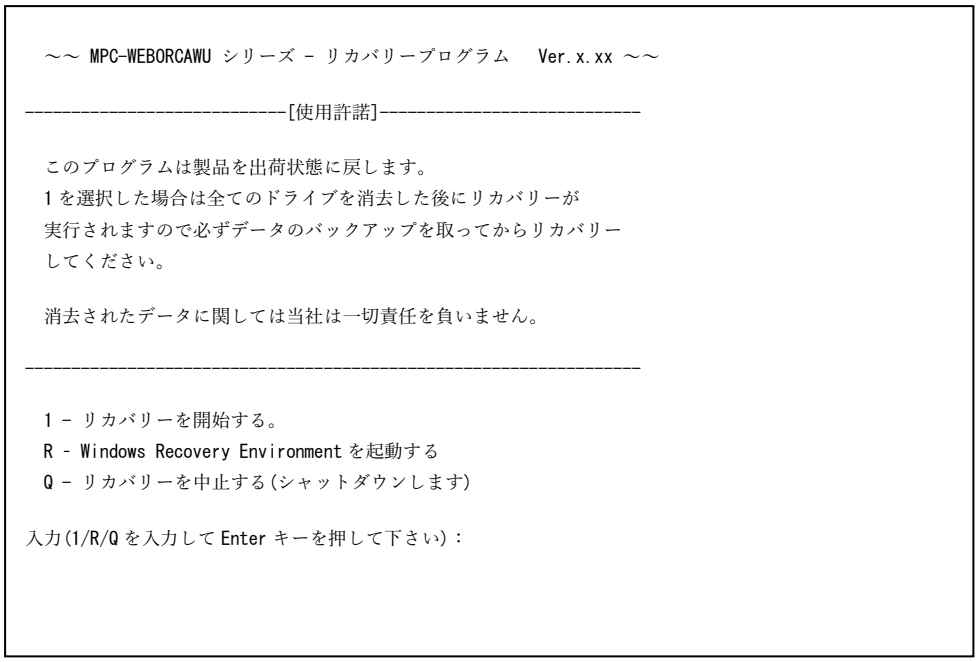
② カーソルキーで［UEFI: XXX］を選び、Enter キーを押す

（USB メモリーのメーカー名とモデル名）

2. 該当するキーを押し、Enter キーを押す

   ※ ここでは例として、[1 -リカバリーを開始する] をおこなうため、[1] キーを入力します。

1	出荷時状態にリカバリーします。すべてのデータが消去されます。
R	バックアップと復元（Windows 7）で作成したバックアップファイルからリカバリーする場合に選択します。
Q	リカバリーを中止します。



3. 「本当にリカバリーを実行してもよろしいですか？（yes/no）」と表示されたら“yes”と入力し、Enter キーを押す

   ⇒ リカバリーを開始します。リカバリーが完了するまでしばらくお待ちください。

   ※ 選択をやり直す場合は、“no”を入力してください。

4. 完了のメッセージが表示されたら、リカバリーUSB メモリーを取り外し、何かキーを押す

ご注意

- Windows の初期化作業のため、起動するまでに何度か自動的に再起動します。

8 お問い合わせについて

重要

●本製品の修理対応、電話やメール等によるサポート対応、ソフトウェアのアップデート対応、本製品がサーバー等のサービスを利用する場合、そのサービスについては、弊社が本製品の生産を完了してから5年間を目途に終了とさせていただきます。なお5年以前であっても一部OS搭載製品において、搭載OSのサポートが終了した場合は併せて終了とさせていただきます。(保証期間内及び弊社有償保守サービス実施可能期間内の場合は除く)

●個人情報は、株式会社アイ・オー・データ機器のプライバシーポリシー(https://www.iodata.jp/privacy.htm)に基づき、適切な管理と運用をおこないます。

よくあるご質問、マニュアル、最新ソフトウェア

https://www.iodata.jp/lib/

保証期間 1 年間

8-1 専用端末の注意事項

- 本製品に使用しているハードウエア（筐体）は、Windows ベースとなります。
  Ubuntu のみの端末の場合は Windows+Ubuntu や既存のオンライン資格確認端末等と挙動が異なります。

8-2 製品のお問い合わせについて

- ハードウェア、ソフトウェアの切り分けについては ORCA ベンダー様にてご実施ください。
- WebORCA につきましては、I-O DATA/日本医師会 ORCA 管理機構様で検証を行っておりますが、I-O DATA からのテクニカルサポートは実施しておりません。
- Ubuntu の各種サービスは Canonical からの提供となります。

- Ubuntu のテクニカルサービスの提供はありません。必要な場合 Ubuntu サポートサービスを行っているインテグレータ様ににご相談ください。
- 本製品は Ubuntu 22.04 LTS を搭載しています。
- Ubuntu Pro for Devices は Canonical 社から提供する Ubuntu を長期間安心してご利用いただける組み込み機器向け商用サービスです。サービスの詳細は下記 URL よりご参照ください。

  ▼Ubuntu Pro Description

  https://ubuntu.com/legal/ubuntu-pro-description

  ▼サービス規約

  https://ubuntu.com/legal/ubuntu-pro-service-terms/ja

  ▼知的財産ポリシー

  https://ubuntu.com/legal/terms-and-policies

- 上記サービス規約と本サービスでは以下の差異があります。

  ・Ubuntu LTS のリリースから 10 年間セキュリティメンテナンスが提供されます。

  ・Ubuntu のアップグレード・ダウングレードができません。

  ・本サービスはバグ等の修正や技術サポートを提供するものではありません。

  ・本サービスは機器に対して付与されるものとなります。

8-3ハードウェア、当社製ソフトウェアに関するお問い合わせ先（メールのみ）

https://contact.iodata.jp/sp/inquiry/landisk

8-4故障時のご連絡先

- ISS 保守 サービスのご契約がない場合は、以下修理についてご確認ください。

①	②	③	④	⑤	⑥
修理申込 (申込番号発行)	修理センター に送付	検査	有償時のみ 見積連絡	修理	修理品 返送

①Webで修理申込

【重要】修理申込をおこなうと、申込番号が発行されます。

https://www.iodata.jp/support/after/repair/

※Webページから修理申込がおこなえない場合は、申込番号の代わりに[名前・住所・TEL(FAX)・E-Mail・症状]を書いたメモを商品に同梱してお送りください。

②修理センターに送付

- □ 商品一式
- □ 申込番号を書いたメモ(Web申込時に発行された番号)
- □ レシートや納品書など、購入日を示すもの

〒920-8513 石川県金沢市桜田町2丁目84番地
(株)アイ・オー・データ機器 修理センター宛
TEL 076-260-3617

※紛失をさけるため宅配便でお送りください。
※送料は、発送時はお客様ご負担、返送時は弊社負担です。
※厳重に梱包してください。弊社到着までに破損すると有料修理となる場合があります。
※液晶ディスプレイ製品の場合、パネル部分を持つとパネル内部が破損します。取扱いには、充分注意してください。
※修理の進捗状況は上記Webページでご確認いただけます。(申込番号で検索)

USB Type-C® and USB-C® are registered trademarks of USB Implementers Forum. USB 2.0 Type-C™ is a trademark of USB Implementers Forum.